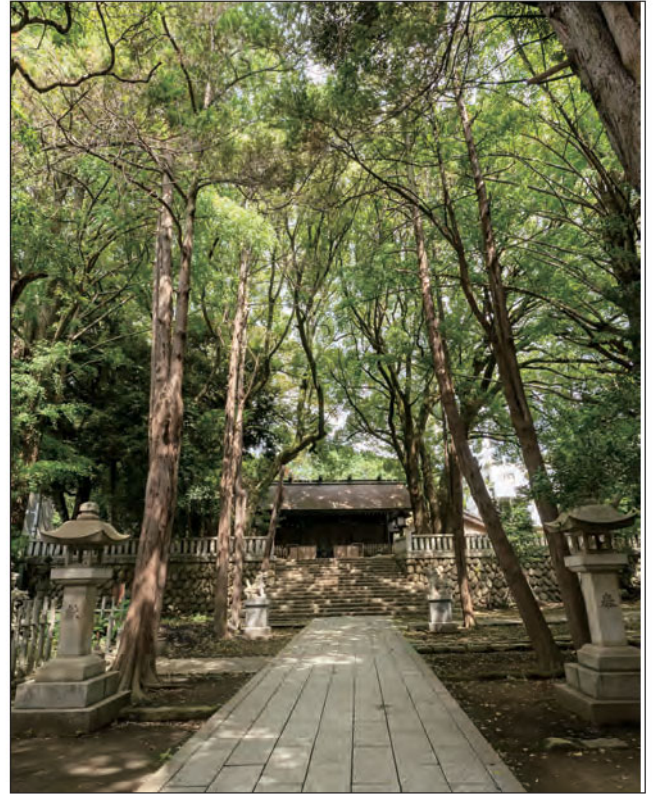


神社

すさきおかみ すさきじんじや
 ■洲崎大神・洲崎神社

健久2年、源頼朝の創建で安房郡安房神社の分霊を勧請したとされています。1868年（明治元年）10月11日、明治天皇が神奈川本陣にご宿泊のおり、当神社に内待所奉安殿を造営されましたが、1875年（明治8年）4月2日の火災により消失し、1907年（明治40年）頃に復興しました。しかし又々1923年（大正12年）9月1日の関東大震災により社殿をことごとく焼失しましたが、1925年（大正14年）3月10日再興の起工が行われ1930年（昭和5年）6月に新殿が竣工されました。その後太平洋戦争の戦火をくぐり抜け、現在の姿に至っています。



▲洲崎大神の内部

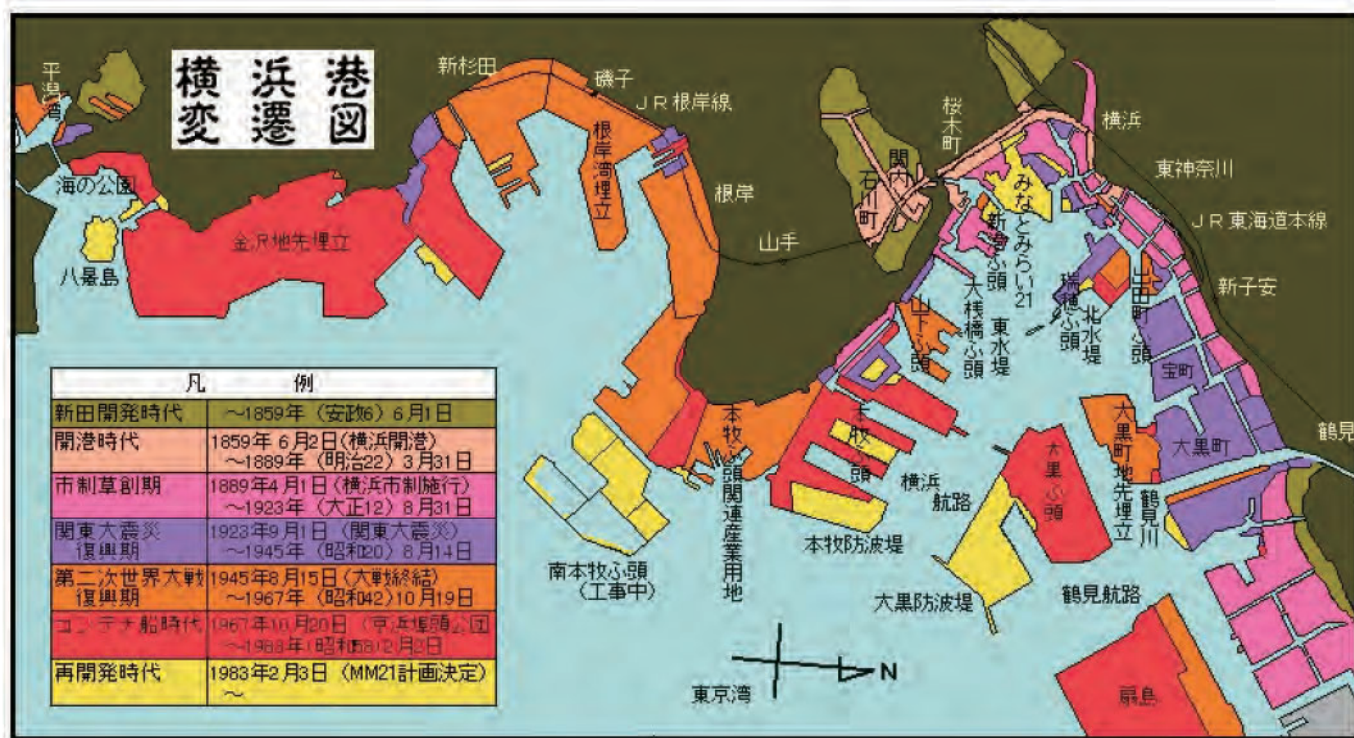


▲洲崎大神の鳥居

■ 移りゆく横浜の海辺

横浜の埋め立ての歴史は長く、まだ江戸時代に入って間もない1667年（寛文7年）の「吉田新田」に始まりました。今の阪東橋・

伊勢崎長者町あたりが一面沼地だったのを埋め立てたのでした。その後、中華街付近（横浜新田）に続き幕末に関内駅と県庁通りの間が埋め立てられました。



▲横浜港変遷図（港湾局政策調政課提供）

港が栄えるにしたがって、坂が多い地形のゆえ人工的に平地を確保しながら港を整備し、産業を伸ばしてきた横浜でした。そして1967年（昭和42年）に貿易の転換期が訪れました。貿易にコンテナが使われるようになったのです。そしてコンテナ船が停泊できるふ頭の埋め立てが急がれました。

また、高度成長期には京浜工業地帯として埋め立てが拡大する一方、1983年（昭和58年）に今のランドマークタワーにあった三菱重工横浜造船所が本牧・金沢に移され、みなとみらい21の都市計画が動き出しました。その後、金沢海の公園や八景島なども整い、現在に至っています。